

今年も「本のリサイクルフェア」は盛況でした

今年も8月9日(木)から8月26日(日)まで、県立図書館では、「本のリサイクルフェア」を開催しました。

この催しは、ご家庭で読み終わった本を県立図書館に提供いただき、本を必要とする県内の公共図書館や学校、県民の皆さんに有効活用してもらおうと、一昨年から実施しているものです。

まず、8月9日(木)から13日(月)まで、県民の皆さんから読み終わった本を県立図書館に持ち込んでいただきました。その数は、実に7,088冊。87人の方からご提供いただき、中には、1人で1,000冊以上もご提供いただいた方もありました。その結果、文学全集や文庫本、児童本など、さまざまな分野の本がたくさん集まりました。

次に、こうして集まった本に県立図書館で不要となった3,196冊を加えて、10,284冊を県立図書館1階の会場に陳列し、17日(金)から順次、県内の公共図書館や学校、県民の皆さんに持ち帰っていただきました。

最終的に、公共図書館や学校などには、19箇所、1,357冊、県民の皆さんには、794人6,401冊の本

をお渡しすることができました。

県民の皆さんへの受け渡し初日となった24日(金)朝には、開館を待つ人の列ができたほか、あちこちで長時間かけて本を選ぶ姿に、皆さんの本に対する関心の高さがうかがえました。

また、この催し物を契機として読み終えた本の有効活用を図ることができれば幸いです。

ご協力いただいた皆さん、大変ありがとうございました。



県民配布の初日、熱心に本選びをする皆さん。

本で見ると佐賀

県立図書館で受け入れた図書の中から、佐賀に関する本を探してみましたのでご紹介します。

「佐賀読本」

金子 信二／著
出門堂／刊

吉野ヶ里遺跡、有田焼など、佐賀を象徴する多くのものが、縄文時代以来の、佐賀という地域の国際性を証明しているとしたら…?

本書は、「佐賀」についてのさまざまな「常識」をわかりやすく一冊につめこんだ丸ごと佐賀本です。



農業に勝ち負けはいらない

山下 惣一／著
家の光協会／刊

人生が人それぞれであるように、農業もまた環境によって多種多様、さまざまであり、農業に勝ち負けはいらない。著者は唐津市在住の農民作家であり、多数の著書がある。



伊万里を三倍楽しむ骨董生活

陳方 武城／著
里文出版／刊

一万円持って骨董市へ出かけよう。美しい器との出会いは、人生を変える第一歩である。家族と共に骨董を楽しむ極意を紹介。骨董市で収集した伊万里焼を多数紹介している。



幕末維新期の都市と経済

松本 四郎／著
校倉書房／刊

幕末維新期の都市史に関する論文集である。城下町の展開と変質、幕末期の経済変動と都市、市場構造の変化と三井家、明治維新期と都市の住民の4部構成になっている。幕末期の肥前国佐賀を事例として詳しく記述されている。



全国年中行事辞典

三隅 治雄／著
東京堂出版／刊

元旦から大晦日まで、多彩な日本の年中行事1,530項目を多数の写真とともに収録している。県関係では、唐津おくんち、多久聖廟祭、日峰さん、呼子の綱引きなど15項目が紹介されている。



日本酒入門

寺田 好文／著
ダイヤモンド社／刊

個性ある酒をていねいに造る隠れた名蔵16を紹介。日本酒の基礎知識やコラムも満載されている。小城市の天山酒造の「天山」が紹介されている。

